

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

文学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
学部	⑤	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	④	④	⑤	⑤	⑤
哲学・思想文化 学プログラム												
歴史学プログ ラム												
地理学・考古 学・文化財学プ ログラム												
日本・中国文学 語学プログラム												
欧米文学語 学・言語学プロ グラム												

自己点検・評価単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
学部					⑤				⑤			
哲学・思想文化 学プログラム	⑤	⑤	⑤	④		⑤	⑤	④		④	④	④
歴史学プログ ラム	⑤	⑤	⑤	③		④	⑤	④		④	④	④
地理学・考古 学・文化財学プ ログラム	⑤	⑤	⑤	⑤		④	⑤	④		⑤	④	⑤
日本・中国文学 語学プログラム	⑤	⑤	⑤	④		④	⑤	④		④	④	⑤

欧米文学語 学・言語学プロ グラム	⑤	⑤	⑤	⑤		④	⑤	④		④	⑤	⑤
-------------------------	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
学部	⑤		⑤	④	④	④
哲学・思想文化 学プログラム		⑤				
歴史学プログ ラム		⑤				
地理学・考古 学・文化財学プ ログラム		⑤				
日本・中国文学 語学プログラム		⑤				
欧米文学語 学・言語学プロ グラム		⑤				

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

領域 1～5 と 7・8 については文学部全体で、領域 6 については学部（項目 6-3-3, 6-5, 6-6-4）と各プログラム（それ以外の項目）を単位に評価を実施した。なお、Humanities in English プログラムは在籍学生がいないため、評価の対象とはしなかった。

領域 1「教育研究上の基本組織に関する基準」：「十分に適合する」という評価であった。諸規則に基づいて教育活動にかかわる運営体制が整備され、十分に機能している。

領域 2「内部質保証に関する基準」：3項目が「十分に適合する」、1項目が「適合する」という評価であった。自己点検・評価を行う仕組みが整備され、収集・分析された情報は教授会の場で共有され、次年度の教育活動の改善に生かされている。学部独自の FD を年に 2 回開催しており、教育研究の質保証に役立てている。

領域 3「情報の公表に関する基準」：「十分に適合する」という評価であった。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが HP 等にて、適切に公表、周知されている。

領域4「施設・設備並びに学生支援に関する基準」：1項目が「十分に適合する」、2項目が「適合する」という評価であった。学生の自主的な学習環境が十分に整備されており、有効に活用されている。学生の履修や生活面等における支援体制が整えられ、部局独自に就学相談室を設ける等、様々な就職・学生支援を実施している。

領域5「学生の受入に関する基準」：3項目が「十分に適合する」という評価であった。アドミッション・ポリシーに沿って、適切な体制の下で学生の受入が行われている。また、入試志願倍率が上昇したことも特記される。

領域6「教育課程と学習成果に関する基準」：学部全体で評価した3項目は、「十分に適合する」であった。卒業認定に係わる評価基準が周知され、卒業認定が組織的に実施されている。また、卒業生や就職先の上司から定期的に意見聴取する仕組みを設け、学習成果を確認している。それ以外の項目については、各プログラムを評価単位としたが、1項目を除き「十分に適合する」または「適合する」という評価であった。各プログラムでは、体系的に教育課程の編成がなされ、授業の方法、内容、成績評価基準等が明示され、かつ履修指導・支援の仕組みを有しており、その下で適切な教育が実施されている。学習成果も十分に上がっていることが確認できる。

領域7「教育の国際性に関する基準」：1項目が「十分に適合する」、1項目が「適合する」という評価であった。留学生の受入が適切な体制により実施され、学生の留学についての支援・取組も適切に機能している。

領域8「リカレント教育の推進に関する基準」：2項目が「適合する」という評価であった。フェニックス型入試、科目等履修生の受入について周知し、社会のニーズに応じたリカレント教育を推進している。

以上により、文学部および各プログラムでは、適切な教育活動が行われていると判断する。